

市民文化局民間活用事業者選定評価委員会 アートセンター部会 会議録

日時	令和8年7月16日（木） 14：00～15：49	
場所	川崎市役所本庁舎305会議室（オンライン会議）	
出席者 （五十音順）	【委員】（五十音順） 岩崎 秀一委員（オンライン会議） 垣内恵美子委員（オンライン会議） 本杉 省三委員（オンライン会議）	【施設所管課】 市民文化振興室 室長 " 課長補佐 " 職員
事務局	市民生活部企画課 課長、担当係長、職員	
傍聴者	6人	
議題	1 川崎市アートセンターの令和7年度の指定管理に関する年度評価	
市民文化振興室室長	開会 ・開会挨拶 ・オンライン会議システムを使用して会議を開催することを説明（3名中3名がオンライン会議システムを使用して出席） ・委員3名中3名の出席により部会の成立の報告 ・会議の公開・非公開 ⇒「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき、公開とすること で一同了承 ・会議録の作成 ⇒「要約方式」により作成すること で一同了承 ・会議録の確認者 ⇒委員全員で確認をすることについて、一同了承 ・会議録の委員名記載 ⇒会議録への委員名と発言内容の記載及び委員名が開示対象となることを 確認 ・配布資料の確認 ・委員の紹介（五十音順） ・委員及びその家族が指定管理者と利害関係がないことを確認 ・施設所管課及び事務局の紹介 ・部会長の選出 ⇒互選により部会長は垣内委員に決定	
垣内部会長	議題1 川崎市アートセンターの令和7年度の指定管理に関する年度評価 それでは、「議題1 川崎市アートセンターの令和7年度の指定管理に関する年度評価」について審議する。	
市民文化振興室課長補佐	<資料に基づき「令和7年度の年度評価」について説明>	

市民文化局民間活用事業者選定評価委員会 アートセンター一部会 会議録

垣内部会長	まず、評価シートの「１．基本事項」と「２．事業実績」について御質問、御意見等をお願いしたいが、１点確認したい。映像編集室の利用実績について０回が続いているが、市としての考えは。
市民文化振興室課長補佐	映像編集室は、数年間利用実績が無く、パソコンやスマホで気軽に映像編集ができるようになったことが要因と考えている。社会環境の変化も踏まえ、令和７年１０月に条例改正を行い令和８年５月１日で廃止とした。今後は、同フロアのコラボレーションスペースと一体的に活用することとしている。
本 杉 委 員	小劇場について、工事により利用が減ったことは当然と思うが、貸館が減って、主催や共催はむしろ増えている。貸館の要望が多い時期に工事をしたのか、それとも偶然そうなったのか。
市民文化振興室課長補佐	音響設備更新工事を２か月ほど実施するうえで、適切な実施時期を指定管理者とも相談し、比較的影響が少ないと思われる１２月下旬から２月末にかけて工事を実施したが、新年の発表会など定例で使っていた団体が使えない状況が発生した。また、例えば３月などに主催事業を優先して実施したことから主催事業の利用が増え、貸館が入る機会が少なくなったという状況もあった。
本 杉 委 員	小劇場と楽屋は一体で使われるものと思うが、利用日数が違う理由は。
市民文化振興室課長補佐	施設ごとの利用可能日数の違いは、工事の影響による休館期間が施設ごとに異なることに加え、工事以外にも施設ごとに点検等で利用できない日数が異なるため違いが生じている。楽屋は、多くは小劇場と連動した使用が見込まれるが、令和７年度は小劇場シネマなど楽屋の利用がないものがあり、差が出ている。
垣内部会長	次に「３．評価」に移る。まず「利用者満足度」についてはいかがか。
岩 崎 委 員	「事業成果」の一つ目の白丸について、総入場者数に対する評価の部分だが、工事の影響はあるものの令和７年度と比べ映像館は増加し、小劇場は減少している。また、小劇場の減少は工事による休館の影響だけなのか否か、読み取れない。それぞれ、増加につながった成果、減少につながった課題があると思われるので、成果と課題を分けて記載したほうがよい。 二つ目の黒丸について、写真展や作品展に訪れた人数として、「数百人単位」とあるが明確に記載したほうがよい。
市民文化振興室課長補佐	一つ目の白丸について、映像館の入場者数は増加し、小劇場の入場者数は減少しているので、それぞれ工事の影響も含めて要因を分析し、成果と課題に分

	けた記載に改める。二つ目の黒丸についても、数値の記載を改める。
岩 崎 委 員	事業報告書の 49 ページには、施設使用料収入に係る部分ではあるが、小劇場について「想定を上回る下げ幅となり、稼働率向上に向けた抜本的な取り組みが必要と考えています」との記載もある。「4」をつけるのはよいが、課題の部分はしっかり認識すべきである。
垣内部会長	小劇場はこれまでもいろいろな課題が指摘されており、それに対して様々な取組がされてきた中で、評価できる点、工事等でやむを得ず下がった点、まだ残っている課題と、分けて書き込む必要がある。 コラボレーションスペースの活用は高く評価してよいと思うが、数値の記載について、1 桁単位まで書いてあるところ、概数しか書いていないところとあるので、統一したほうがよい。 「利用者満足度」の評価点数はこのままとする。
垣内部会長	次に「収支計画・実績」について、まず岩崎委員の御意見を賜った後に議論できればと思う。
岩 崎 委 員	「効率的・効果的な支出」について、支出が削減され収支が改善されたため「4」という評価になったと思うが、まず、収支状況等確認シートで削減された支出の内容について2点確認したい。 1 点目は、事業費の「支払負担金」について、予算比で約 330 万削減しており、「評価の理由」の欄には、「川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）への支払負担金の減少」と書かれている。アルテリッカしんゆりへのサポートにあたり、役割の変更があったのか、また、事業の実施に問題ない形で経費削減ができていたのかを確認したい。 2 点目、事業費の「委託費」について、「劇場主催事業の技術スタッフの内製化等により委託費が 1,400 万円減りました」とあるが、人件費を見ると、大きく増えてはいない。年間で 1,400 万円の業務を、人数の変更がない中で内製化することが可能だったのか。内製化した業務の内容とともに確認したい。 次に、「収入の確保」について、予算比では 41 万 5 千円しか増えておらず、ほぼ予算と変わらない。予算と同額であれば、本来「4」ではなく「3」ではとも思うが、「4」と評価した根拠を改めて確認したい。 また、小劇場について、日数や人数の減少は休館の割合とほぼ一致し 17～20%弱となっている。一方、貸館の収入は 35～40%くらい下がっている。利用日数が減った以上に大きな要因があったと思うので、その理由を確認したい。先ほどと同様に、評価できる部分と課題の部分を分けて記載する必要があるので、書きぶりの訂正をお願いしたい。

市民文化局民間活用事業者選定評価委員会 アートセンター部会 会議録

市民文化振興室課長補佐	支出についての１点目、支払負担金の減少について、アルテリッカしんゆりはアートセンターの特定事業であり、アートセンターは事務局を担い、実行委員とともに取り組んでいる。実行委員会自体の収支の均衡を取るのが難しい中、支出の考え方について見直しを図ったことにより実行委員会の収支が改善し、アートセンターからの制作負担金の支出がなくなったと聞いている。 ２点目、委託費の減について、アウトリーチの講師や主催公演の技術スタッフを内製化したことに加え、舞台美術を含め演出プランそのものを見直したことによる減と聞いている。 収入については、予算額と比べ 41 万 5 千円の差額となっているが、前年の令和 6 年度では予算に対し 2,182 万円ほど不足していた。そこから、令和 7 年度決算で立て直すまでには指定管理者として非常に努力されていたことを評価し、「収入の確保」についても評価を「４」としたものである。 小劇場の貸館については、工事の影響を見込んでも貸館の件数が少なかったと聞いているので、その要因について分析し、文章については修正したい。
垣内部会長	「効率的・効果的な支出」について、しんゆり芸術祭の財務構造を見直したことによって支払負担金が減少したということは理解できると思う。 内製化については、劇場主催事業においてスタッフの専門性を生かして、様々な内製化を図ったことで効率化したというのも一定理解できるかと思うが、もう少し説明があるとわかりやすい。 「収入の確保」については、昨年が深刻で、今年は普通になったというようにも見える。特別に努力したことなどがあれば説得材料になるが、国の助成金も取れなかったなど残念な部分もあり、「４」という評価で大丈夫なのか。
本 杉 委 員	難しい問題だと思っている。身を切るような思いをしている指定管理者の立場に立つと、かなり努力して収支改善を図っても評価してもらえないのかとなるのは望ましくない。甘い評価も良くないが、あまり厳しすぎる評価も難しく、そのバランスをどう考えているのか。
市民文化振興室長	内製化については、小劇場の公演に関する委託等の費用がかなり嵩んでいることから、切り分けられるところが無いかという形で、一部を内製化し削減につながったと認識している。無理が生じているようであれば指定管理者と協議し、適正な労働環境を守る必要があるが、現段階では、そういった工夫の中で生まれたものと考えている。 収入については、これまでの赤字の状態が問題であり、今は普通の状態かもしれないが、映画の鑑賞料について値上げすべきところは値上げし、値下げすべきところは値下げするなど工夫したこと、また、月曜休映していた映像館を活用した上映や、小劇場での映画の上映など、少しでもできることをと工夫して実施したことなど、全体の中で最終的に「４」と評価した。

市民文化局民間活用事業者選定評価委員会 アートセンター部会 会議録

垣内部会長	40万ほどのプラスだが、非常に苦勞した部分を評価したという説明だった。問題は、これを見た市民が納得するかどうかというところにある。努力されたということは書かれているので良しとするという考えもあるが、いかがか。
岩 崎 委 員	イメージとして、「収入の確保」は収入金額が予算と比べてどうだったかということ、「効率的・効果的な支出」は支出額そのものの削減効果と、あとは収入も踏まえた収支に注目する部分だと思う。収入確保のための取組は、次の「サービス向上及び業務改善」でも評価できる部分かと思う。 年初に組んだ予算額に対して、年度末にどうだったかという意味では、今回の収入の確保については「3」でもよいのではないか。
垣内部会長	努力されたのはわかるが、結果責任も問われるので、「収入の確保」が「4」はいかがなものか。「効率的・効果的な支出」は「4」でよい。
市民文化振興室長	工夫をしていただいたことは強調したいところではあるが、その結果、適正な範囲になったということで、「3」に修正させていただこうかと思う。
本 杉 委 員	よくやった時は褒めてあげるべきだと思う。標準と言えは標準かもしれないが、去年の「2」で厳しく評価し、今年は甘く評価する方がいいのではないか。
垣内部会長	では、このあとの評価も見たうえで、最後に判断することとしたい。
垣内部会長	次に「サービス向上及び業務改善」のところを確認していきたい。 私から3点伺いたい。 はじめに「業務改善によるサービス向上」について、「4」でもよいが、託児サービスの利用者が1名というのは、ニーズがなかったのか。最後の来年度に対する指導事項で「意義があることであっても、成果が出てないものは分析すること」という記載があり、そこに加えても良いのではと感じた。もし理由がわかれば教えてほしい。 2点目は、川崎市アートセンター広報戦略プランを作成して、しっかりと対応されたかと思うが、その効果も大事だと考える。6つの大学から9人の学生が集まった学生座談会について、割と小規模だと感じたが、この座談会で、学生視点からの意見が具体的に記載されていれば、成果が分かる。具体的に書けるような提案があったのであれば、記載したほうが説得力が増す。 3点目は、最後の行に記載のある認知度向上について、令和5年のアンケートで認知度が非常に低かったという課題が重くのしかかっているので、取組によって認知度が高くなったという数字が結果で現れていれば、盛り込んでもらいたいのがいかがか。

市民文化振興室課長補佐	一つ目、小劇場の託児サービスの利用が1名だった理由は指定管理者から聞き取りできていないが、利用人数は少なくとも枠組みを新たに作ったということの評価した。ただ、利用を広げていかなければ、準備した体制も機能しないので、なぜ利用が生まれなかったのかという点はしっかり分析し改善していくべきであり、御指摘のとおり、指導事項に一言加えたい。 続いて、学生座談会について、9人と小規模だが、これまで大学との関わりがなかなか持てなかった中で、こういった形を作れたということの評価している。特筆した具体的な意見や成果は確認できていないが、来年度の事業計画や、第5期に向けての取組においてヒントをもらったと聞いているため、書き加えたい。 最後の認知度向上について、令和5年度のかわさき市民アンケートにおいて認知度が低いという結果が出たが、毎年実施しているものではなく、同様に認知度を測る機会がないため、具体的に認知度が上がったとは言にくい。
垣内部会長	「4」と評価するのであれば、説得力を強化したい。例えば託児サービスの件について、「子育て世代の鑑賞機会の確保につながった」と書いているが、「つなげる試みをした」など実態に沿った表現にしたほうがよい。 学生座談会についても、学生の視点から様々なサジェスションがあり、次年度の計画につなげることができたなど、実態に沿った結果を示した方がよい。 「業務改善によるサービス向上」の最後の行に「認知度の向上につながった」と書いてあるが、ファミリー層が多く来館し、その人たちは認知したのだろうが、はっきり書くエビデンスがないと思うので、書き方を工夫してほしい。いろんな試みをしたこと自体は、評価して「4」でよいと思うので、違和感がないように書きぶりを工夫してほしい。
本 杉 委 員	資料に、託児サービス利用者が10名程度と書いてあったが、映画館の方の利用者か。
市民文化振興室課長補佐	御指摘のとおり、映像館における保育付き上映については、10人の利用があった。令和7年度に初めて取り組んだ小劇場の保育サービスの利用者数が1名ということになる。
垣内部会長	そうであれば、映像館の保育付き上映は10名を超える利用者があり、これを小劇場にも拡大した、利用者は小劇場の方は1名であったが子育て世代への鑑賞機会の拡大を目指したなど、実態に合った文章にするとよい。 評価段階はいずれも「4」ということで、文章の書き方は工夫をお願いします。 参考として、子どもの居場所というのは大変だと思っているが、教育委員会の寺子屋事業にエントリーされたとのこと、どのような内容か。

市民文化局民間活用事業者選定評価委員会 アートセンター一部会 会議録

市民文化振興室課長補佐	映像班から、寺子屋でのワークショップ実施についてエントリーしたと聞いている。令和7年度は申込がなかったが、令和8年度に2箇所から申込があったと聞いている。
垣内部会長	次に、「組織管理体制」に入りたい。「4」の評価が3項目あるが、評価や説明についていかがか。
岩 崎 委 員	内製化の話があったが、それに付随して労働条件、労働環境が適正に確保されているのか。役割が増えた中、本当に必要な人員が適切に配置されているか。担う業務が、今までに比べて大きなボリュームになることが想定される。事業費の給料手当が3,600万円ぐらいであり、1,400万の経費として払っていた業務を内製化するということは、少なくとも1,000万円分ぐらいの役割が増えるんじゃないかと懸念される。それを踏まえて、人員配置や労働環境について問題のない水準になるよう配慮していただきたい。
市民文化振興室課長補佐	委託に係る業務を内製化したことにより職員の労働環境に問題はないのかという点について、実態として、1,400万円の削減については業務の内製化により削減した部分もあるが、演出や舞台美術を見直したことにより削減した部分もあるため、すべてを職員が担うものではない。また、毎月定例会等で指定管理者と打合せをしているが、職員の労働環境に支障が生じているという話は聞いていない。しかしながら、今回の指摘を踏まえ、改めて指定管理者と、労働環境などに支障が生じている部分がないのか、何か市として協力できる部分があるのかなど、現状の把握と、何らかの改善ができるかどうか検討したい。
垣内部会長	演出の変更により予算がだいぶ変わるので、そういう部分を少し削ったのかもしれない。演出を変えることで、芸術的な水準を落とさないようにする必要があるが、そこは問題なかったという判断かと思う。職員に負担をかけずに削減することもあり得たかと思うが、懸念もあるので念頭においていただきたい。「組織管理体制」自体の評価段階、それから書きぶりについては大丈夫か。
委 員 一 同	了承した。
垣内部会長	次に、「適正な業務実施」について、問題なく行われたという「3」の評価になっているがよろしいか。
委 員 一 同	了承した。
垣内部会長	では、「収支計画・実績」に戻り、「収入の確保」を「4」にするか「3」に

市民文化局民間活用事業者選定評価委員会 アートセンター部会 会議録

	するかについて、前が良くなかったので、元に戻っただけで「4」をつけるのはモラルハザードになるという感じもする。元に戻ったことは良しとしながらも、次回以降、もう少し頑張ってもらいたいという評価でよいかと思うがいかがか。
本 杉 委 員	評価を令和6年度の「2」から令和7年度は「4」にするというのは、かなり高いハードルを一度を超えた気がするので「3」でも良いかと思うが、厳しい評価によって、努力してもこの程度かと労働意欲を削いでしまうのではと心配している。そうならないように、全体のところで上手く書いていただきたい。
岩 崎 委 員	指定管理業者に評価結果を伝えるときは、文書とともに実際にお会いして、口頭も含めて伝えるのか。
市民文化振興室課長補佐	結果については、文章だけではなく、会議の場で直接話をしいる。
岩 崎 委 員	評価はある程度の基準がないといけないので、例えば今回「3」にしたとしても、頑張りを否定する意味ではないので、しっかりと盛り返してきたところの努力への評価や、それをぜひ次にもつなげてほしいなど、プラスのコメントとともに伝え、フォローすると良いのではと思う。
垣内部会長	では、当委員会としては、「収支計画実績」の「収入の確保」は、「4」ではなく「3」とし、事務局から、委員の先生方から温かい励ましや危惧など様々な意見が出たということも情報共有し、次につながるようなインセンティブというものに配慮いただきたい。 評価段階を1箇所変更するので、「4. 総合評価」が変わるがいかがか。
市民文化振興室課長補佐	評価を変えた「収入の確保」の配点が6点であり、評価を「4」から「3」に変えると、4.8点から3.6点になるので、総合点としては1.2点マイナスした70.4点、評価ランクはBで変更がないものとする。
垣内部会長	では、先ほどの「収入の確保」は「3」とし、総合評価は70.4点でBとしたい。文言は、市民目線で工夫していただきたい。 次に、「5. 全体的な評価」と「6. 指導事項」は、合わせて議論したい。 「指導事項」について、先ほどの託児サービスなど、仕組みは作ったが結果が出ていないものは、引き続き取り組むようにと記載いただきたい。また、働き方改革も含めて、職員の過重な労働にならないようにという記載を入れることも考えられるが、当然のことなのでここに入れず、事務局から情報、意見共有の場でお話いただくというやり方もある。5と6について、いかがか。

市民文化局民間活用事業者選定評価委員会 アートセンター一部会 会議録

本 杉 委 員	開設から 19 年が経過したところで、設置者である市として、この施設を今後どうしていくのかということを知りたい。大規模修繕等の計画はあるのか。
市民文化振興室課長補佐	大規模修繕の実施年度について、具体的に決まっていらないが、一般的に劇場は開設後 20 年が一つの目安になり、30 年経過すると危ないと聞いているので、局内の他施設の大規模修繕の状況なども考慮しながら、検討を進めたい。
本 杉 委 員	小劇場の利用者があまり多くないのは、運営者の問題なのか、それとも施設の問題なのか。どこが問題なのかということを知りたい。施設そのものに課題や問題はないのか、設備も含めて使い勝手が良くないから利用者があまり増えないのかなど、市として調査や検討など行ってきたのか。
市民文化振興室課長補佐	小劇場の利用者が増えないことについて、小劇場では令和 7 年度の音響設備更新の際にイマーシブオーディオという機能が導入され、公立の劇場にはまだ少ないこの機能を魅力の一つに、利用者を新しく開拓できるのではと考えている。 市として、特別に議論している場はないが、劇場の大きさとして 200 席しかなく、興行として使用するにはキャパの魅力が少ないと思っている。どちらかというと興行をメインとしない劇団に使用してもらうのが良いと思うが、劇団のニーズについて、市としても調査して検討していく必要があると考える。
市民文化振興室長	ご指摘のとおり、施設が 20 年近く経ち、設立当時と比べ映像や劇場の環境など状況が変わってきているので、ハード面、ソフト面も含めて、この時代にこういった施設がふさわしいのかということは、市もしっかり考えていかなければならないと思っている。 利用者のニーズや、指定管理者の意見も聞きながら、長いスパンでこれからの時代の要請に応えられる施設に向けて、検討していきたい。
本 杉 委 員	考えないと、利用は伸びていかない。200 席の劇場にイマーシブオーディオはそもそも必要かということもあるので、専門家を入れて考えないといけない。ただ新しい設備にするだけではなく、舞台や楽屋など全体を見ながら考えたほうがよい。
垣内部会長	劇場自体はまだ 20 年であり、長寿命化が進む中、まだ使われることになると思う。キャパを変えることはなかなかできないので、今の条件、200 席で演劇向き、地域密着型で駅から近いこの劇場を、どう運用していくのか、特に、マーケットはどこにあり、どういう要件を満たせばより使ってくれるのかというマーケット調査をしないと。指定管理者の現場の知見もあるので、市と一緒に将来構想を考えていただくのがよいと思う。ここについては、評

市民文化局民間活用事業者選定評価委員会 アートセンター部会 会議録

	価シートには書きづらいので、ご意見として頂戴することによいか。
本 杉 委 員	結構である。
垣内部会長	令和９年度には周年事業があり、今から補助金申請など準備をしなければならない。補助金も、文化庁だけじゃなくいろんなところからお金を取ってくる必要がある。補助金申請の際、どういったお客さんをターゲットにするかというのは絶対必要なところなので、そういった全体像を、指定管理者は考え始めていると思う。市でもフォローしてサポートしていただければと思う。 この評価シートについては、先ほどの「収入の確保」が評価段階が「３」になり、トータルの点数も少し変わるが最終的な評価はＢということになった。 理由のところは、意見を踏まえて事務局の方で修正していただきたい。この評価シートで了承してよいか。
委 員 一 同	了承した。
垣内部会長	それでは予定されている議事はこれで終了となるので、市民文化局民間活用事業者選定評価委員会アートセンター部会を閉会とする。
市民文化振興室長	< 閉会の挨拶 >